

内水面漁業総合対策研究 (内水面魚病対策推進事業)

今岡慶明, 柳宗悦

【目 的】

内水面養殖業における魚病の多発化, 複雑化に対応した魚病, 防疫知識の普及, 啓発を図るとともに, 水産用医薬品の適正使用の指導など総合的な対策を行い, 県内の内水面養殖業者の経営安定と養殖魚の食品としての安全性を確保することを目的とする。

【方 法】

養殖業者等からの検査依頼に対し, 症状観察, 寄生虫, 細菌, ウイルス検査, 薬剤感受性試験を行い, 結果報告及び防疫に関する指導を行った。また, 天然河川で採捕されたアユの出荷前の健苗性確認(冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症)及びコイのコイヘルペスウイルス病(KHV病)蔓延防止に向けたPCR検査を行った。さらに, 防疫対策として, 養殖業者, 漁業者又は漁協へ, 巡回指導により魚病被害の軽減を図るとともに, 各種会議に出席し, 魚病情報, 研究内容等の情報交換を行った。

【結 果】

1) 魚病診断結果

64件(ウナギ, コイ, アユ等 健苗性確認も含む)(表1)

ウナギが約63%を占め, 中でも診断件数として特に多かったのが, ウイルス性血管内皮壊死症(鰓うっ血症), シュードダクチロギルス症, パラコロ病の3種であった。(表2)

表1 平成26年度 魚種別・月別魚病診断件数

単位: 件

魚種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	H25計	H26/H25 (%)
ウナギ	4	3	4	5	4	2	2	2	2	5	3	4	40	33	121.2
コイ	1	2			1								4	4	100.0
アユ	9											6	15	12	125.0
ニジマス			1			1			1	2			5	2	250.0
その他													0	3	0.0
計	14	5	5	5	5	3	2	2	3	7	3	10	64	54	118.5

表2 月別、魚種別、魚病別の診断件数（同時依頼分に複数の要因があった場合は各要因毎に計数） 単位：件

ウナギ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
鰻うっ血症	1	2	2	4	2	2		1		1			15
鰻うっ血症+シュードダクチロギルス症	2	2	2	1	1		2	1		2	1		14
鰻うっ血+シュードダクチロギルス症+バラコ病		1										2	3
鰻うっ血症+シュードダクチロギルス症+バラコ病+点状充血症										1			1
鰻うっ血症+シュードダクチロギルス症+カラムナリス症	2			1									3
鰻うっ血+シュードダクチロギルス+白点病	1												1
鰻うっ血+シュードダクチロギルス+点状充血症		1		2			2						5
鰻うっ血+シュードダクチロギルス症+トリコジナ症+ピブリオ病	1												1
鰻うっ血症+シュードダクチロギルス症+白点病+カラムナリス症	1												1
鰻うっ血症+シュードダクチロギルス症+カラムナリス症+点状充血症	1												1
鰻うっ血症+バラコ病				1		1			1	1			4
鰻うっ血症+バラコ病+ピブリオ病		1											1
鰻うっ血+バラコ病+トリコジナ症				2									2
鰻うっ血症+バラコ病+ピブリオ病+トリコジナ症				1									1
鰻うっ血症+カラムナリス症		1		1									2
鰻うっ血症+点状充血症			2	1	2	1	1						7
鰻うっ血症+トリコジナ症				1									1
シュードダクチロギルス症		1	2		2	1	1	1		3	2		13
シュードダクチロギルス+バラコ病					2					1	2	2	7
シュードダクチロギルス症+バラコ病+カラムナリス症	1												1
シュードダクチロギルス症+白点病	1												1
シュードダクチロギルス+カラムナリス症				1									1
シュードダクチロギルス+点状充血症			1	1	1		1			1			5
シュードダクチロギルス症+トリコジナ症	1							1		1			3
シュードダクチロギルス症+白点病+カラムナリス症	1												1
バラコ病		1		1		1			1	1		2	7
バラコ病+ピブリオ病		1											1
点状充血症					1								1
カラムナリス症			2										2
カラムナリス症+点状充血症			1										1
不明			1	1	4	1			2	3	2		14
計	13	11	13	19	15	7	7	4	4	15	7	6	121
コイ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
カラムナリス症+シュードダクチロギルス症+白点病	1												1
白点病		1											1
チョウ症		1											1
不明					1								1
KHV検査件数		2			1								3
(うち陽性件数)		0			0								0
計	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
アユ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
イクタルリ検査件数	5											3	8
(うち陽性件数)	0											0	0
冷水病検査件数	4											3	7
(うち陽性件数)	0											0	0
不明													0
計	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	15
ニジマス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ギロダクチルス症										1			1
ピブリオ病										1			1
ピブリオ病+カラムナリス症										1			1
不明			1			1			1	2			5
計	0	0	1	0	0	1	0	0	1	5	0	0	8

※コイの診断件数について、KHV病検査が陰性でへい死原因が不明の場合、及び出荷前検査でPCR陰性の場合「不明」にカウントしている。
 ※不明には河川事故を含む。

2) PCR検査

アユについては、エドワジエラ・イクタルリ感染症検査を8件、冷水病検査を7件実施し、いずれも陰性であった。また、コイについてはKHV病検査を3件実施し、いずれも陰性であった（表3）

なお、コイのKHV病の検査件数の推移を図1、アユのエドワジエラ・イクタルリ感染症検査件数の推移を図2、冷水病検査件数の推移を図3に示した。KHV病については平成18年度より当センターで確定診断を実施している。

表3 平成26年度PCR検査結果

単位：尾，ロット

魚種	検査対象疾病	診断日	市町村等	河川・養殖場等	検査尾数	検査ロット数	PCR検査結果
アユ	エドワジエラ・イクタルリ感染症	4月～翌3月	霧島市	日当山天降川漁協	120	24	全て陰性
				松永漁協	20	4	全て陰性
				桜校川漁協	20	4	全て陰性
					検査回数 8回		
アユ	冷水病	4月～翌3月	霧島市	日当山天降川漁協	360	60	全て陰性
				桜校川漁協	60	10	全て陰性
					検査回数 7回		
コイ	KHV病	H26.5.12	長島町	個人池	6	6	全て陰性
		H26.5.29	鹿屋市	個人池	2	2	全て陰性
		H26.8.8	霧島市	個人池	1	1	全て陰性
					検査回数 3回		

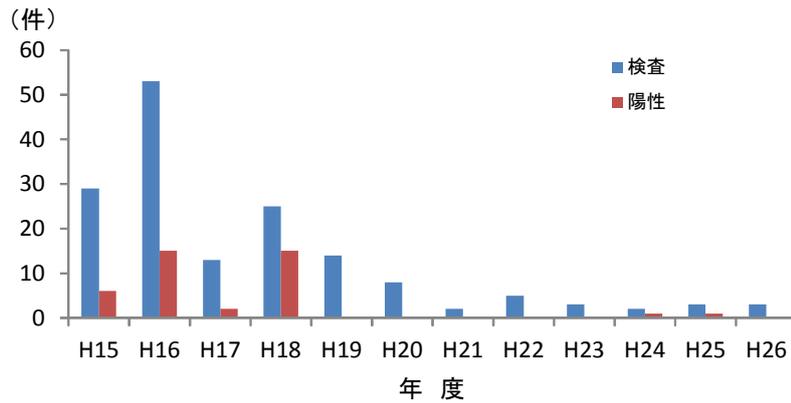


図1 KHV検査件数及び陽性件数

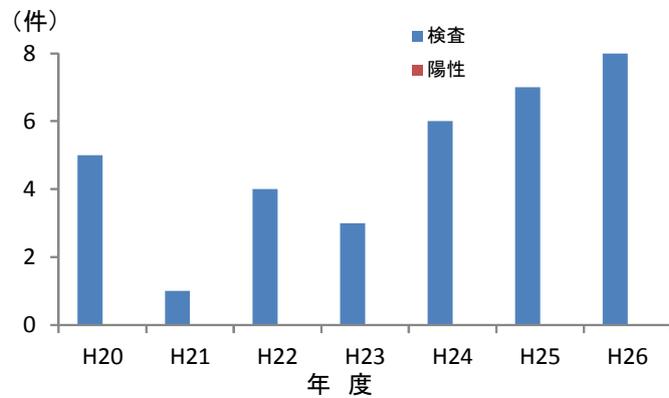


図2 アユエドワジエラ・イクタルリ感染症検査件数 (陽性はなし)

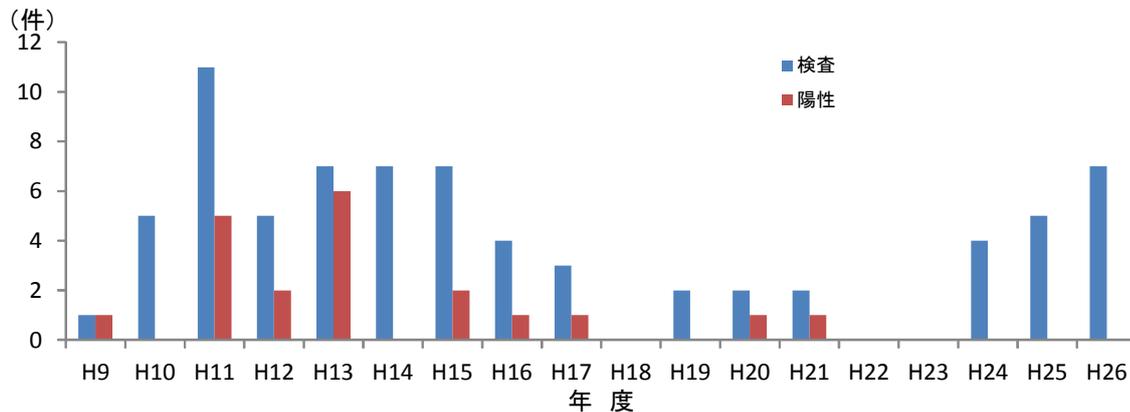


図3 アユ冷水病検査件数及び陽性件数

3) 防疫対策巡回指導

今年度池田湖においてコイ養殖を再開させた養殖業者を初めとするコイ養殖業者数件に対し、KHV病蔓延防止に向けた指導を行った。

4) 魚病関係会議における情報交換

①九州・山口ブロック水産試験場長会「内水面分科会」への出席（1月 山口県）

魚病診断状況、池田湖におけるKHV病発生後のコイ養殖再開等について説明した。

②南中九州・西四国水族防疫会議開催（2月 鹿児島県）

本県の魚病診断状況等について説明するとともに、他県の魚病診断状況等についても聴き取りを行った。

③全国養殖衛生管理推進会議への出席（3月 東京都）

全国における魚病発生状況、防疫対策等の実施状況、今後の事業実施状況、予算等について情報交換を行った。

5) ウナギ台湾輸出に係る臨床検査、健康証明書発行

平成26年度は18件の健康証明書発行依頼に対して発行を行い、当該発行に係る総尾数は1,460,585尾、総重量は27,906.0kgであった（表4）。

なお、平成23年度からの健康証明書発行件数の推移は図4のとおりとなっている。

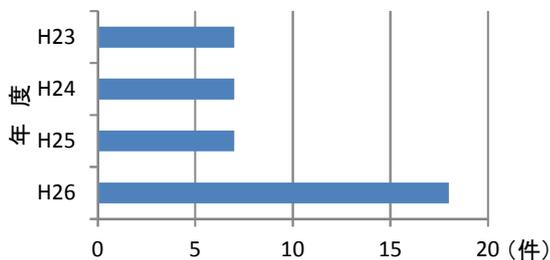


図4 ウナギ台湾輸出に係る健康証明書発行件数（H23～H26）